

地域医療連携室だより

～ 第 20号 ～

地域医療連携室 室長 挨拶

大阪市立十三市民病院

立春とは名ばかりでまだまだ寒い日が続いております。気象庁は、1月10日に沖縄県的那覇市のカンヒザクラ(寒緋桜)の開花を発表しました。これは、平年よりも8日早い開花となりました。今後の予想気温は沖縄から北海道まで平年並みか高くなるようです。貴院におかれましては益々御盛栄のこととお喜び申し上げます。

2019年の漢字には、「令」が選ばれました。新天皇即位による新元号決定が新たな時代の幕開けを告げた1年であり、「令」という漢字1字が持つ意味に、明るい新時代が希望に満ち溢れた1年であればと念じております。

さて、当院は、地域に密着した急性期病院としての医療機能の確保、がん医療の充実およびチーム医療の推進を目標として取り組んでおります。今年は、更に以下のことに取り組んでまいります。

① がん医療の充実

大阪府がん対策推進委員会がん診療連携検討部会において、2020年4月より大阪府のがん診療拠点病院として承認を受けることができました。大阪府下46病院の1つとして総合的ながん診療に積極的に取り組み、関連の医療機関との連携を図りつつ、今まで以上に質の高いがん診療が提供できる様に努めてまいります。

② 一般診療の充実

昨年皮膚科医師1名が常勤となり、2020年4月からは耳鼻科医師1名が常勤となる予定ですので、幅広く診療が行なえる体制を整えてまいります。

③ チーム医療の推進

認知症サポートチームと排尿ケアチーム(近日中に News Letter 発刊予定)に引き続き、昨年10月から院内急変対応チーム(RRT)が始動しております。入院患者さんの急変の6～8時間前に起こるとされているバイタルサインの異常をキャッチし、致死性の急変を未然に防ぐために活動するチームです。

最後に、十三市民病院も開院より無事70周年を迎えることができました。これもひとえに地域の先生方のおかげと心より感謝申し上げます。

これからも地域医療連携室では、地域医療機関の先生方や患者さんが利用しやすい病院を目指して努力していく所存でありますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室長 小砂見 恵子



言語聴覚士のご紹介

言語聴覚士 矢野 悟志

当院で言語聴覚士としての業務は、主に聴力検査を行っております。対象となる患者さまは「聞こえにくさ」や「耳鳴り」、「めまい」といった症状を主訴に来院された方々になります。主に行っている検査として以下のものがあります。

・標準純音聴力検査

ヘッドホンから複数の周波数を聞いていただき、どの音の強さから聞こえるか検査します。これにより周波数毎にどの高さの音が聞こえにくいといった、聴力の全体像を把握することができます。

・ティンパノメトリー

鼓膜に音と圧力をかけて鼓膜の動きを検査して鼓膜や中耳の機能低下の有無を調べることができます。

・語音聴力検査

標準純音聴力検査の結果を基に言葉の聞き取りの検査をします。「どの大きさの音まで聞き取れるか」、「どの大きさが最も聞き取りやすいか」、「聞き取りにくい言葉」などを調べることができます。

また、当院では現在、摂食嚥下リハビリテーションを実施するための準備をすすめています。今後誤嚥する方や疾患・術後などによって飲み込みにくさを感じる方などを対象に評価や訓練、指導を行っていく予定です。主な内容は、顔や口腔の筋肉の動きや筋力を評価・観察し、実際に水やゼリーを摂取した様子からどの食事形態が最も適しているかを検討します。呼吸や声の様子、認知機能などを含め総合的に患者さまの摂食嚥下機能を評価します。主に行う訓練として、患者さまの状態に合わせて実際に水やゼリーを摂取する直接訓練や、摂食嚥下に関係する筋肉のマッサージや筋力強化を行います。

・開業医の先生方へ

当院では聴力検査だけでなくCTによる画像診断も行うことができます。精査を必要とする患者さまがいらっしゃる際は耳鼻咽喉科への紹介をよろしくお願い致します。



麻酔科のご紹介

麻酔科部長 医師 小田 裕

十三市民病院(当院)は比較的小規模な病院ですが、日本麻酔科学会認定病院で、局所麻酔や検査目的での鎮静以外は、緊急帝王切開を含め全て常勤の麻酔科専門医(3名)が行っています。基本方針は次の通りです。

1. 緊急手術の麻酔要請に24時間応えます！ 決して断りません！

当院では24時間内科系救急患者を受け入れておりますが、外来診察の結果緊急手術が必要となる症例も多いです。昨今多くの病院で、「緊急手術の麻酔に対応できない」という理由で患者さんの受け入れを断られたという話を耳にします。当院麻酔科は、たとえ手術中であっても緊急手術の要請を決して断らず、24時間対応しています。



また近隣の病院で高リスクを理由に麻酔を断られた患者さんにつきましても、患者さんや御家族の御希望および安全性を再度評価の上、できる限り麻酔を行っています。2018年度は麻酔科管理での手術件数は1,310例で、うち342例(26%)が緊急手術でした。今後は外科系救急患者さんの受け入れ開始が予定されており、ますます緊急手術の必要度は高まると思われる。

今年度からは皮膚科の常勤医が配置され、積極的に手術を行っております。さらに他の診療科にも常勤医が配置され、全身麻酔での手術が増加すると思われませんが、麻酔科は全てに対応致します。

2. 術前・術後診察を充実させ、患者さんに適した麻酔を行います！

当院で手術を受けられる患者さんの特徴として、ご高齢の方が多くことが挙げられます。繰り返し手術を受けられる患者さんも多いです。合併症を有する頻度が高く、安全・快適な麻酔を行う上では術前の全身状態の評価が非常に重要となります。これらの患者さんの麻酔については、ふだん使用しておられる薬や検査データ同様、「過去の麻酔歴」が非常に重要です。当院で以前に麻酔を受けられている場合はできる限り記録を参照し、患者さんのお話を十分御伺いした上で麻酔方法や使用する薬剤を決定しています。

また術後の痛みを和らげるため、硬膜外麻酔や、超音波ガイド下での末梢神経ブロックを積極的に併用しています。

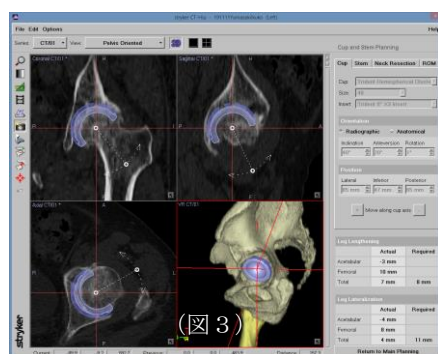
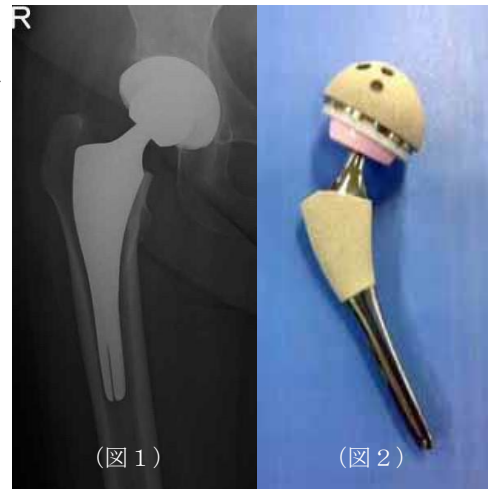
人工股関節置換術ナビゲーションシステム

リハビリテーション科部長(兼)整形外科副部長 医師 坂和 明

当院では2019年秋より『人工股関節置換術』において先進技術であるナビゲーションシステムを導入いたしました。

『変形性股関節症』、中高年男性に多い『大腿骨頭壊死症』、高齢女性に多い『急速破壊型股関節症』や『大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折』、『関節リウマチ』などで、股関節の変形や破壊が高度な場合、痛みの強い関節を金属やセラミックなどの人工物に置き換える手術を人工股関節置換術(Total Hip Arthroplasty、以下 THA)といいます(図1)。

骨盤側と大腿側にそれぞれ人工のインプラント(図2)を設置しますが、その際適切な位置や角度で設置することが非常に重要で、手術後の人工関節の耐久性や術後合併症の一つである脱臼発生にも大きくかかわってきます。



ナビゲーションシステムは、インプラントを術前の計画通り正確に設置するための助けとなるシステムです。具体的には、手術前に股関節のCTを撮影して立体モデルを含めた三次元で関節を観察し、患者様ごとの適切なインプラント設置位置を計画しておきます(図3)。

手術中は、股関節表面の位置情報を登録して術前のCT画像上の関節とマッチング(一致)させます。次いで手術器械の位置情報を読み込むことによって、コンピューター画面上にインプラントの位置をリアルタイムに表示することができ、術前計画に沿った設置が可能となります(図4)。

従来のTHAと比べ正確な設置が可能となり、合併症の少ない手術が提供できると考えております。股関節痛で悩まれている方はぜひ一度受診してみてください。



がん診療の紹介

がん性疼痛看護認定看護師 中村 巳保子

診療科や職種など部門を超えた総合的ながん診療に積極的に取り組み、近隣の医療機関さまとの連携を図りつつ、質の高い診療が提供できるように努めております。

【がん地域医療連携クリニカルパス】

当院では、患者さんに対して切れ目のない医療をご提供するため、近隣の医療機関さまのご協力のもと地域連携クリニカルパスの運用を進めております。

・がん地域医療連携パスとは

共有するがん診療の計画表(連携パス)に基づき、かかりつけ医と当院の医師が共同で診療するシステムです。当院にて専門的な治療や節目の検査をおこない、かかりつけ医で日々の診察を受けていただく流れになります。現在、「乳がん」「大腸がん」「肝がん」「肺がん」「胃がん」「前立腺がん」のがん診療地域連携クリニカルパスを活用しています。



【サポート体制について】

・緩和ケアチーム

がんと診断された患者さんとそのご家族が、適切な治療とケアを受けて、自分らしく暮らしていくことができるよう、診断時からサポートできる体制をとっております。

・がん相談支援センター

当院は、「がん相談支援センター」を設置しています。がん相談員、がん化学療法看護認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師、医療ソーシャルワーカー等が、患者さんとそのご家族・地域の皆様の、疾患・治療・仕事・セカンドオピニオン・生活全般についてなどの不安や心配事について対応させていただきます。

・がん看護外来

化学療法看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師等が、患者さんにご家族の苦痛や療養上のお困りごとに対してお話を聞かせていただき、安心して療養できるよう「がん看護外来」で継続的なサポートをしております。

がんサロン

がんとうまく付き合い、自分らしい生活を過ごせるよう支援することを目的としてがんサロンを設置しております。悩みや不安・生活の工夫などを語り合える「懇話会」や、療養に役立つ勉強会「サロン・ド・Juboo」などを開催しています。

・キャンサーボード

がん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等をするためのカンファレンスを定期的(第3木曜日)に開催しております。



～第11回十三トピックセミナーのご案内～

- 3月11日(水)18時30分～19時40分
- 9階すかいルーム
- 演題:「原因別に見た腰痛の診断と治療」
- 演者:大阪市立大学大学院医学研究科
整形外科学
- 講師 鈴木 亨暢 先生

※ 大阪府医師会生涯教育講座を単位申請しております

編集

大阪市立十三市民病院
地域医療連携室
代表 小砂見 恵子

〒532-0034
大阪市淀川区野中北 2-12-27
代表電話:06-6150-8000
直通電話:06-6150-8067(地域医療連携室)